

令和2年11月4日  
丸森町復興推進本部会議

## (1) 災害公営住宅・町営住宅整備方針に基づく整備詳細について

### 1 進捗状況及び全体スケジュール

資料1-1「災害公営住宅・町営住宅整備スケジュール」参照

資料1-2「丸森町災害公営住宅・町営住宅建設事業提案書」参照

資料1-3「丸森町復興住宅建設協議会 体制図」参照

### 2 意向調査結果

資料2「住宅の再建等に関する意向調査（第2回）結果概要」参照

### 3 整備戸数

160戸（RC造72戸、木造88戸）

整備方針時160戸（RC造76戸、木造84戸）

地区名			建設課案	整備方針時	参考：第2回意向調査	
災害公営 50戸 約7,150㎡	構造（RC）	戸数	36戸	36戸		28戸
		階層	5階	4階		4階
		戸数/階当	8戸	9戸		7戸
	木造	戸数	14戸	14戸		22戸
		階層	平屋	平屋		平屋建て10戸 2階建て12戸
	集会所		有	無		無
	建設費		高価	安価		高価
	駐車場		70台	75台		-
	ペット		最大12戸	-		7戸（3戸）

敷地の広さ、中央の水路の経路により、RC造を4階から5階へ変更。

整備戸数が50戸と相当数であること及び周辺住民の利用（コミュニティへの配慮）も想定し、5階に集会所を設置。

集会所設置により5階としたため、全体事業費は増加する。

ペット同伴入居を可とし、木造平屋及びRC1階に最大12戸分を用意する。

町営住宅 （神明） 90戸 約20,000㎡	構造（RC）	戸数	36戸	40戸	24戸
		階層	5階	4階	4階
		戸数/階当	8戸	11戸	7戸
	木造	戸数	54戸	50戸	66戸
		階層	平屋	平屋	平屋建て58戸 2階建て8戸
	集会所		有	有	有
	建設費		-	-	高価
	駐車場		129台	145台	-
	ペット		不可	-	4戸

雨水ポンプ場の建設予定地により敷地が狭くなったことからRC造を4階から5階へ変更（災害公営住宅と同様階層）

RCを5階とした分、木造が増加しているが、構造戸数に大きな変更がないため、建設費への影響も軽微。

ペット同伴入居は「住宅に困窮する低所得者」が町営住宅の対象であり、不可とする。

意向調査による入居希望者は77世帯である。災害公営住宅の非対象や地区未記入からの増加も見込まれる。

地区名		建設課案	整備方針時	参考：第2回意向調査	
町営住宅 (竹谷) 20戸 5,100m <sup>2</sup>	木造	戸数	20戸	20戸	
		階層	平屋	平屋	
	駐車場		36台	30台	-
	ペット		不可	-	1戸

2階希望者が1世帯のみであったが、構造階層に変更なし。

ペット同伴入居は不可（神明地区同様）。

意向調査による入居希望者は13世帯である。災害公営住宅の非対象や地区未記入からの増加も見込まれる。

#### 4 型別割合

地区名		建設課案	整備方針時	参考：第2回意向調査
災害公営 50	1LDK (2DK)	30 60%	25 50%	29 59%
	2LDK (3DK)	15 30%	14 28%	15 31%
	3LDK (4DK)	5 10%	11 22%	5 10%
町営住宅 (神明) 90	1LDK (2DK)	56 62%	43 48%	39 62%
	2LDK (3DK)	28 31%	39 43%	20 32%
	3LDK (4DK)	6 7%	8 9%	4 6%
町営住宅 (竹谷) 20	1LDK (2DK)	8 40%	10 50%	2 20%
	2LDK (3DK)	6 30%	8 40%	4 40%
	3LDK (4DK)	6 30%	2 10%	4 40%
全地区 160	1LDK (2DK)	94 59%	78 49%	70 57%
	2LDK (3DK)	49 30%	61 38%	39 32%
	3LDK (4DK)	17 11%	21 13%	13 11%

整備方針時との比較で各間取りの割合に変化があるが、第2回意向調査結果の割合を用いた戸数である。（意向調査の結果と間取り未記入者を合わせて38戸分有り）

ただし、竹谷地区は全体の型別割合を考慮し、調整した。

#### 5 住宅配置図

資料3 - 1「整備方針策定時平面図」、資料3 - 2「2回目意向調査反映平面図」及び資料3 - 3「建設課案平面図」参照

## 6 年齢別割合

年齢層	災害公営	神明住宅	竹谷住宅	不明・未回答	計
0~18	1	30	9	0	40
19~39	2	27	7	2	38
40~64	19	40	4	2	65
65~74	18	23	2	0	43
75以上	21	27	4	2	54
計	61	147	26	6	240
高齢化率	63.9%	34.0%	23.1%	-	40.4%

地区名	第2回意向調査時(135世帯)			参考:第1回意向調査時(146世帯)		
	子育て世帯	高齢者がいる世帯	うち高齢者のみ世帯	子育て世帯	高齢者がいる世帯	うち高齢者のみ世帯
災害公営 42世帯	1	32	26			
町営住宅(神明)77世帯	17	45	35			
町営住宅(竹谷)13世帯	4	5	5			
不明(未記入)3世帯	0	2	1			
計	22	84	67	29	87	68

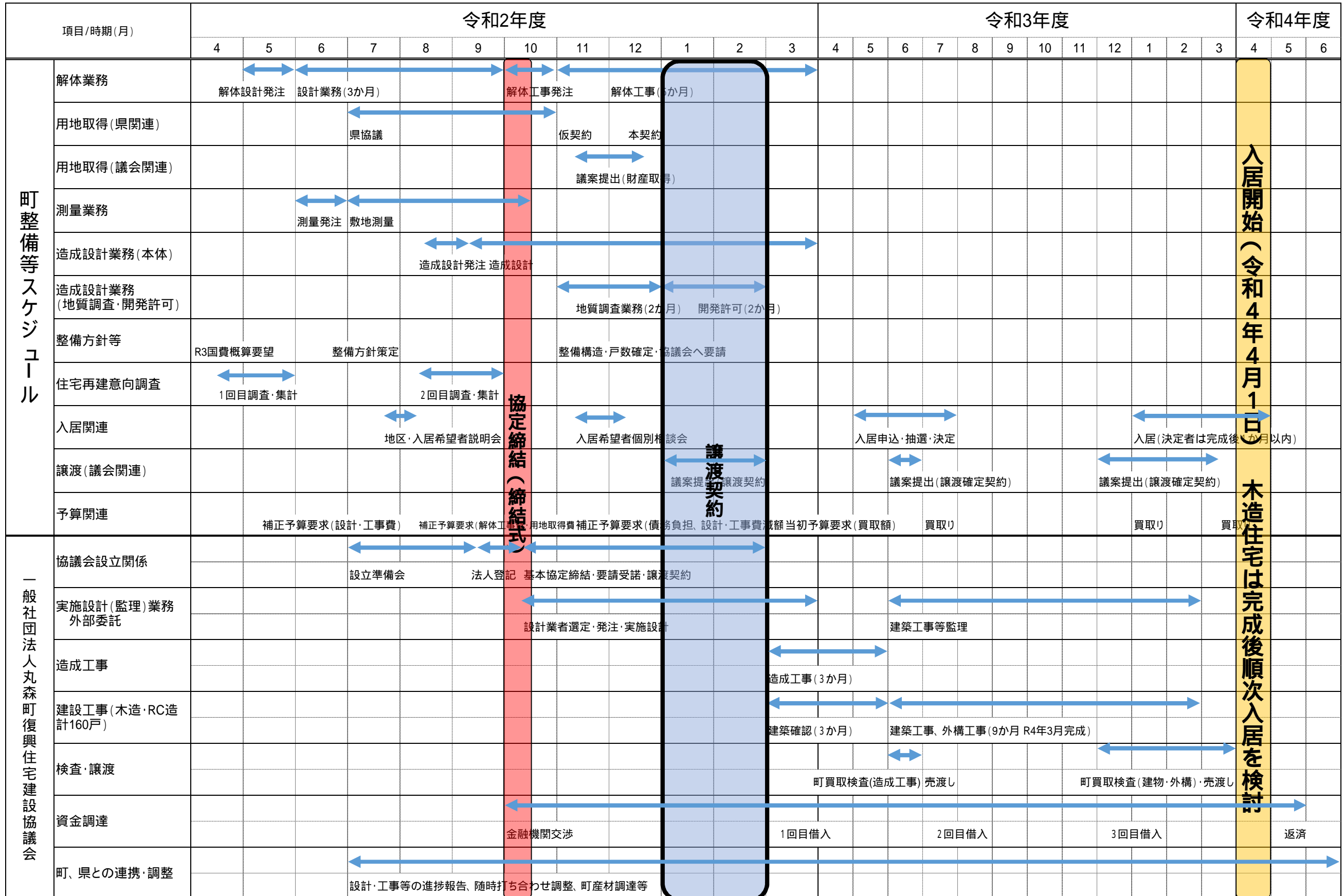
地区別では、災害公営住宅入居希望者の高齢者の割合が特に高い。

## 7 通勤時間について

出勤時間	災害公営	神明住宅	竹谷住宅	計
6:00前	1	2	0	3
6:00~6:14	5	6	2	13
6:15~6:29	0	0	0	0
6:30~6:44	6	6	1	13
6:45~6:59	1	0	0	1
7:00~7:14	5	10	6	21
7:15~7:29	1	0	0	1
7:30~7:44	5	14	2	21
7:45~7:59	0	1	0	1
8:00~8:14	8	8	3	19
8:15~8:29	0	0	0	0
8:30~8:44	1	2	0	3
8:45~8:59	0	0	0	0
9:00~12:00	4	8	1	13
計	37	57	15	109

入居希望者の朝の通勤時間は分散していることから建設地周辺の道路拡幅や信号の設置は不要と考える。

災害公営住宅・町営住宅整備スケジュール



入居開始(令和4年4月1日)  
 木造住宅は完成後順次入居を検討

# 丸森町災害公営住宅・町営住宅整備事業提案書

## 1 趣旨

令和元年東日本台風により被災した丸森町民の生活再建を支援するため、町が実施する災害公営住宅・町営住宅の建設に関して、町内各産業の事業者等による「オール丸森」で組織する当協議会が町と協定を締結し、丸森町産を中心とする木材資源を有効に活用し、木のぬくもりを感じるこの出来る復興住宅建設を提案するもの。

### (1) 基本コンセプト 丸森町の気候風土と調和した温かな住宅を関係者が一致団結して建設

丸森町産を中心とする木材資源と建築技術を活用して、丸森町の気候風土・文化慣習と調和する住宅を供給するとともに、木材特有の天然素材活用による化学物質過敏症(アレルギー)を考慮した、人と自然に優しい住宅建設を目指す。

### (2) 住宅の性能 基本性能の確保と経験を活かした住宅建設を提案

丸森町災害公営住宅・町営住宅整備方針に定める基本性能を確保するほか、町が必要とする基準を満たすとともに、協議会構成員の経験からなるアイデアを町に提案し連携しながら、より良い住宅の建設を目指す。

### (3) 使用木材の種類 丸森町内の原木を伐採し優良みやぎ材を木材に使用

主要構造材(柱・梁桁等)・下地造作材: 丸森町内のスギ等を丸森町森林組合等の原木供給者が連携して伐採するとともに、優良みやぎ材を主体として使用

外壁及び屋根材、床材・天井材等: 丸森町の提示する仕様書に基づき協議会が調達手法を調整し、最も効率的かつ安価に調達

### (4) 部材・施工の工夫 丸森町内建設関係者が今後のメンテナンスも考慮した仕上がりを提案

内装仕上げ部材は化学物質過敏症に対応し、かつ耐震性・防火性のある素材を活用

基礎内部洗浄等のメンテナンスし易い基礎とする。

居室内をバリアフリー化するなど、入居者の居住性に配慮する。

## 2 協議会

### (1) 主に丸森町産材を活用した、災害公営住宅・町営住宅の建設を推進するため、町内事業者により協議会を設立

一般社団法人丸森町復興住宅建設協議会		
丸森町が策定した「災害公営住宅・町営住宅整備方針」の事業趣旨に賛同した丸森町内の事業者等による共同事業体		
構成員	丸森町森林組合、株式会社石川組、株式会社伊藤工務店、有限会社岡崎工務店、株式会社春日部組、今野建業二級建築士事務所、有限会社鈴木工務店、株式会社月崎工務店、船山建設株式会社、株式会社本田組	
役割分担	木材調達	丸森町森林組合及び連携する民間事業者
	木材加工	丸森町内の製材工場及び本協議会の趣旨に賛同し、協力する県内製材・合板工場、プレカット工場、その他木材を取り扱う事業者
	住宅建設	株式会社石川組、株式会社伊藤工務店、有限会社岡崎工務店、株式会社春日部組、今野建業二級建築士事務所、有限会社鈴木工務店、株式会社月崎工務店、船山建設株式会社、株式会社本田組
	与信管理・資金調達	当協議会が独自に金融機関と調整
全体調整	協議会事務局、(一社)宮城県建築士事務所協会	

### 災害公営住宅・町営住宅の建設に必要な町内協力業種一覧

住宅建設に必要な下記業種を行う町内事業者等を広く募集し、協議会構成員として事業に当たる。  
外部足場 基礎 金物 左官 屋根 内装 電気 ガス 塗装 畳・建具サッシ 給排水  
原則として、丸森町内に住所又は本店・支店等を有する個人又は団体及び協議会の目的に賛同する町外の個人・団体が当協議会の会員となり、丸森町が求める仕様に従って住宅建設が可能な事業者を対象とする。

### (2) 計画期間内の住宅供給及び木造住宅における基本的な事業サイクル

当協議会は、別紙「住戸タイプイメージ」のとおり、1戸当たり60m<sup>2</sup>程度の住宅を町の住宅整備計画期間内において、別紙1「災害公営住宅・町営住宅整備スケジュール」のとおり住宅を供給する。木造住宅においては下記基本サイクルで供給し、鉄筋コンクリート造の集合住宅においても町産材を可能な限り活用し、計画期間内の供給に努める。

基本的な事業サイクル (整備地区毎に木造住宅を下記サイクルで建設)

着手準備	着手前	着手後	1ヵ月	2ヵ月	3ヵ月	4ヵ月	5ヵ月	6ヵ月
事業種	実施設計	事業種	製材・乾燥		プレカット		木工事	
	造成工事		基礎工事		木工事		内外装住宅設備工事	
	木材伐採		基礎工事		木工事		内外装住宅設備工事	
			基礎工事		木工事		内外装住宅設備工事	

### (3) 建設後のメンテナンス

主に町内事業者等で構成する当協議会は、住宅建設後も瑕疵担保期間である10年間は存続するため、責任をもって建設した住宅のメンテナンス等を迅速に行うことが可能である。

## 3 体制

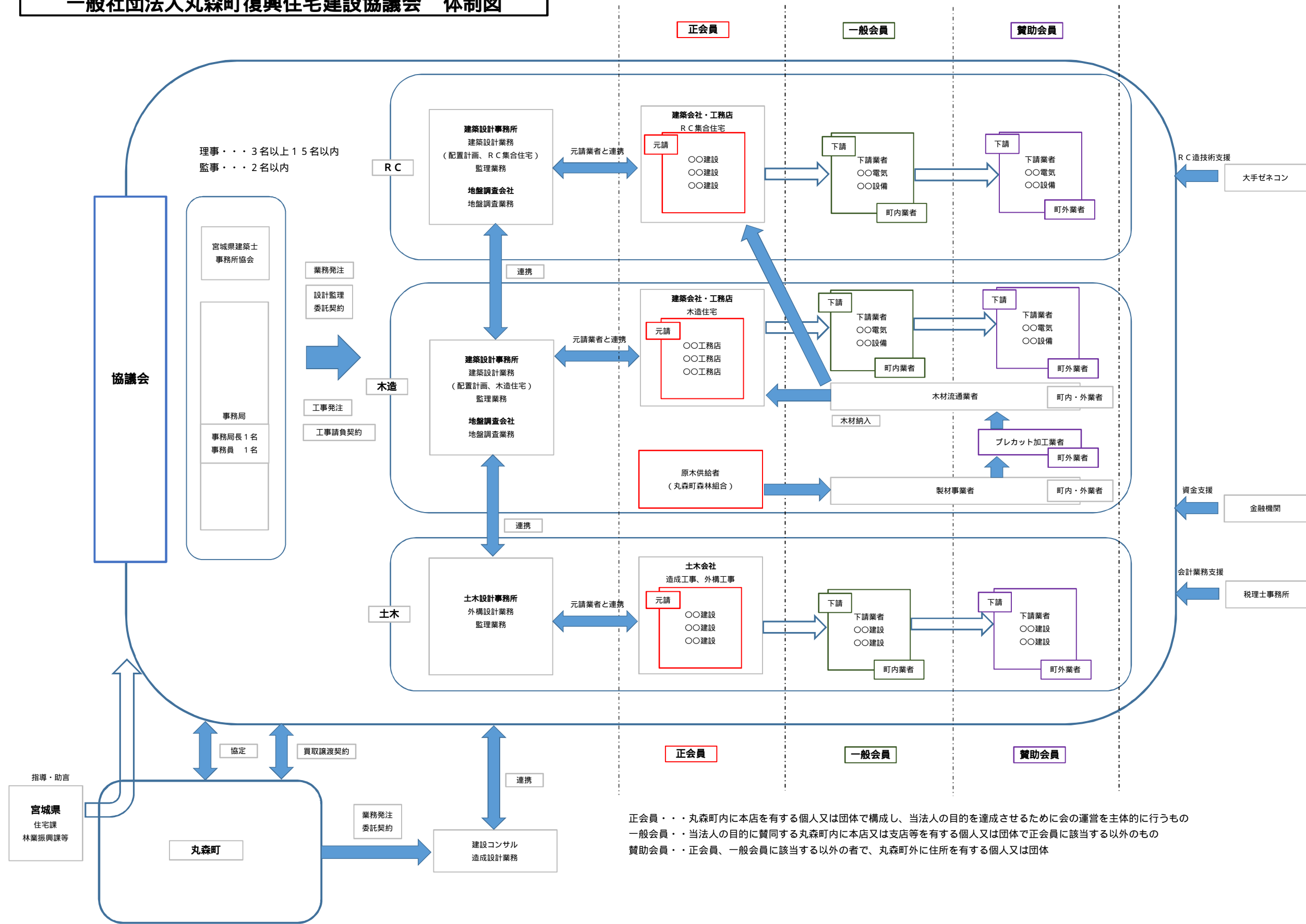
協議会が丸森町との協定に基づき受注し、別紙2「一般社団法人丸森町復興住宅建設協議会体制図」により事業を行う。

施工箇所が3地区であるため、協議会事務局が施工管理体制を構築し、有資格者の確保や資材の規格・品質統一、安定的な調達を図り、早期の住宅建設に対応する。

プレカット加工は、宮城県木材協同組合と連携し、丸森町周辺の加工施設を最大限活用するとともに、協議会構成員と既存取引関係にある主に県産材加工を手掛ける近隣地域の事業者が実施する。

宮城県、丸森町及び丸森町から造成設計業務を受注した事業者と常に連絡・調整を行い、町の住宅整備計画期間内完成に向け、円滑かつ仕様に基ついた住宅を建設し、速やかに町へ譲渡する。

一般社団法人丸森町復興住宅建設協議会 体制図



## 住宅の再建等に関する意向調査(第2回)結果概要(災害公営住宅入居希望者)

<実施目的> 以下の方への住宅再建に関する意向確認

「災害公営住宅」への入居をお考えの方

上記 以外の再建をお考えの方

<実施期間> 令和2年8月12日から令和2年8月21日

<対象者> 住宅の再建等に関する意向調査(第1回)において「再建済」と回答された方以外の方

送付数	回収	回収率	建設戸数	入居希望
249	244	98.0%	50	59

## 希望する住宅の構造・階層

木造	1階	2階以上	無記入	計
希望者数	20	5	4	29
RC造	1階	2階以上	無記入	計
希望者数	1	26	0	27
無記入	1階	2階以上	無記入	計
希望者数	1	1	1	3
計				59

## 希望間取り

間取り	1LDK	2LDK	3LDK	2DK	3DK	4DK	無記入	合計
世帯人数								
1人	14	0	0	13	0	0	4	31
2人	0	11	0	4	0	0	2	17
3人	0	2	0	0	4	0	0	6
4人	0	0	1	0	0	1	0	2
5人	0	0	0	0	0	2	0	2
6人	0	0	0	0	0	1	0	1
合計	14	13	1	17	4	4	6	59

## スロープ必要者(世帯数)

	木造		RC造	
	1階	2階以上	1階	2階以上
希望者数	9	1	1	7
計	9	1	1	7

## ペット飼育世帯数

	木造	RC造	計
1階	1	0	1
2階以上	2	4	6
計	3	4	7

## 車の保有台数

	0台	1台	2台	3台	4台	5台	無記入	合計	世帯平均
希望者数	7	33	11	2	1	0	5	59	0.9
車台数計	7	33	22	6	4	0	5	77	1.3

住宅戸数毎に最低1台分の駐車場確保が必要なため、0台及び無記入に車台数を算入している。

## 新しい住宅で近所になりたい人

特にいない	41
被災時住所の近隣の人	8
同じ仮設団地の人	3
その他	7
計	59

その他で記載あったものの回答内容：

両隣、男性1人世帯は避けて欲しい

## 入居後の考え方について

永住	50
新築・購入等により他に住宅を取得したら転居 住宅予定年数3年以上	6
新築・購入等により他に住宅を取得したら転居 住宅予定年数3年未満	2
無記入	1
計	59

住宅の再建等に関する意向調査(第2回)結果概要(災害公営住宅入居希望者)

(災害公営住宅希望者)住宅に関して不安なこと 自由記載

数年後の家賃の値上げ。
災害等の安全性。
家賃の支払い。
既設設備について。ガス器具、カーテン、エアコン、電気器具等。
夫婦共身体に異常あり被災時の時の近隣の人達と生活したい。
家賃が払えるか。近所付き合いができるか。新たな災害に対応できるか。
来客用の駐車場があれば良い。
別居している祖母は同居できるか？
竹谷町営住宅に2階の集会所を作ってほしい。家賃を安くしてほしい。
車両保有台数が0台ですが、家族、ヘルパーさんが来る為、駐車場を用意してほしい。
被災現地に建替え移転するかは災害復旧・防止事業等の内容により判断することになっているため、検討中です。また、移転する場合の候補地選定、地元工務店が災害公営住宅の建設に集中することで民間住宅建設が後回しになるのではという不安材料があります。
3LDK(4DK)を希望します。
北山町道が復興するのは何年後なのか？によって考えていきたい。
ペット等の騒音。
希望すれば必ず入居できるのか不安あり(筆甫の自宅は半分解体、住居不可)。
災害が怖いので、対策をしっかりしてほしい。
入居期限は2年と聞いている。 災害公営住宅が竣工しなかった場合、住まいがどうなるか心配。
要支援のため、1人住まい不安。
同居予定者あり。現在みなし2部屋。広さや設備によっては民間の賃貸を希望。
防音対策。

災害公営住宅を希望しない方の再建内訳

	プレハブ	みなし	その他	計	主な再建先
修繕・改築	13	22	44	79	町内
建替え	5	9	5	19	町内
新築	13	10	3	26	角田市、県内
購入	2	6	2	10	角田市、県内
賃貸	2	8	6	16	角田市、亶理郡、仙台市
再建済	3	2	8	13	町内、未記入
その他	4	0	18	22	親戚等同居
計	42	57	86	185	

再建時期

令和3年3月まで(今年度内)	34
令和3年4月～12月まで(令和3年内)	45
令和4年以降	6
無記入	100
計	185



住宅の再建等に関する意向調査(第2回)結果概要(町営住宅戻り入居希望者)

<実施目的> 以下の方への住宅再建に関する意向確認

「町営住宅」への戻り入居をお考えの方

上記 以外の再建をお考えの方

<実施期間> 令和2年8月12日から令和2年8月21日

<対象者> 住宅の再建等に関する意向調査(第1回)において「再建済」と回答された方以外の方

送付数	回収	回収率
105	105	100.0%

建設戸数	入居希望
110	93

希望地区	
神明	77
竹谷	13
無記入	3
計	93

希望間取り

(地区名等)	間取り 世帯人数	1LDK	2LDK	3LDK	2DK	3DK	4DK	無記入	計
		神明	15	1	0	17	0	0	6
	2人	1	11	0	8	0	0	0	20
	3人	0	6	0	0	8	0	0	14
	4人	0	0	1	0	0	0	0	1
	5人	0	0	0	0	0	2	0	2
	6人	0	0	0	0	0	1	0	1
	無記入	0	0	0	0	0	0	0	0
竹谷	1人	1	0	0	4	0	0	0	5
	2人	0	2	0	0	0	0	0	2
	3人	0	0	0	0	1	0	0	1
	4人	0	0	0	0	0	1	0	1
	5人	0	0	0	0	1	2	0	3
	6人	0	0	1	0	0	0	0	1
	無記入	0	0	0	0	0	0	0	0
無記入	1人	0	0	0	0	0	0	0	0
	2人	0	0	0	0	0	0	0	0
	3人	0	0	0	0	0	0	0	0
	4人	0	0	0	0	0	0	0	0
	5人	0	0	0	0	0	0	0	0
	6人	0	0	0	0	0	0	0	0
	無記入	0	0	0	0	0	0	3	3
計	1人	16	1	0	21	0	0	6	44
	2人	1	13	0	8	0	0	0	22
	3人	0	6	0	0	9	0	0	15
	4人	0	0	1	0	0	1	0	2
	5人	0	0	0	0	1	4	0	5
	6人	0	0	1	0	0	1	0	2
	無記入	0	0	0	0	0	0	3	3
総計		17	20	2	29	10	6	9	93

住宅の再建等に関する意向調査(第2回)結果概要(町営住宅戻り入居希望者)

希望する住宅の構造・階層

木造	1階	2階以上	無記入	計
神明	42	3	8	53
竹谷	8	2	1	11
無記入	0	0	0	0
計	50	5	9	64
RC造	1階	2階以上	無記入	計
神明	3	21	0	24
竹谷	0	0	0	0
無記入	0	0	0	0
計	3	21	0	24
無記入	1階	2階以上	無記入	計
神明	0	0	0	0
竹谷	1	0	1	2
無記入	0	0	3	3
計	1	0	4	5
総計				93

スロープ必要者(世帯数)

	木造		RC造	
	1階	2階以上	1階	2階以上
神明	8	0	2	1
竹谷	1	0	0	0
計	9	0	2	1

ペット飼育世帯数

	木造	RC造	計
1階	2	1	3
2階以上	1	1	2
計	3	2	5

車の保有台数

	0台	1台	2台	3台	4台	5台	無記入	合計	世帯平均
神明	14	31	17	4	0	1	10	77	0.7
竹谷	0	6	4	1	0	0	2	13	0.7
無記入	0	0	0	0	0	0	3	3	
車台数計	14	37	42	15	0	5	15	128	1.4

住宅戸数毎に最低1台分の駐車場確保が必要なため、0台及び無記入に車台数を算入している。

新しい住宅で近所になりたい人

特にない	57
被災時住所の近隣の人	13
同じ仮設団地の人	3
その他	20
計	93

その他で記載あったものの回答内容：

隣は女性世帯希望、親族等

入居後の考え方について

永住	75
新築・購入等により他に住宅を取得したら転居 町営住宅予定年数3年以上	9
新築・購入等により他に住宅を取得したら転居 町営住宅予定年数3年未満	1
無記入	8
計	93

住宅の再建等に関する意向調査(第2回)結果概要(町営住宅戻り入居希望者)

(町営住宅希望者)住宅に関して不安なこと 自由記載

家賃がどの位なのかわからない。月額所得が表に当てはまらない場合どう計算するのかかわからない。入居して、何年後かに高額になるのでは住もうと思えない。

防音・耐震対策。

嵩上げは必要かなと思います。

ペット同伴入居。

腰悪いのでベッドが入る部屋。家族訪問時の駐車スペース。

前住んでいた場所に住めるか。前の住宅のように庭に車を止めるスペースがあるのか？前の住宅にいたとき、車にキズをつけられたことがあったので心配です。

家賃。汲み上げポンプが完成するまでの川の氾濫。

となりの話し声が聞こえないこと。足音がひびかないこと。

年金が少々なので永住だと家賃が心配になる。

水害、洪水が心配です。

部屋タイプについてはまだ考え中です。変わることもあるかもしれません。部屋の間取りや部屋の広さ等がはっきり決まらなると申し込み後に変わってくると困ると思うのでそのあたり配慮をお願いします。

水害が起き水没の危険。

高齢なので和室があると助かります。

息子がひとり残った時マンションタイプだとパニックになるかも。何かあった時息子が心配。

家賃が不安です。

家賃もう少し安くなりませんか？水害の心配だらけですが大丈夫ですか？家を求めたいのですが丸森にしようか他町にしようか悩んでいます。

マンションタイプのほうが大雨などになっても少しは安心できると思います。ですが、安全面(不審者等)不安があります。集合所、避難のために高い所って言うのは、良いと思いますが、だれでも出入りできるとなると不安です。

高齢なのでスロープが必要になると思う(手押し車、外)。

家賃、車が増えた場合の駐車場。

災害にならないか不安。家賃のこと。

1階でなければ。

玄関前まで自家用車が入れ、客の車もおく場所が、ほしいです。又水が上がらない高い場所が欲しいです 2LDKと回答しましたが3DKと坪数一緒なら2人で3DKもOKにしてほしい(1LDKと2DKのように)。

ペット同伴入居希望。浴室、洗面所、台所に窓が欲しい。物置はないのか。

家賃に関して

これからの災害で、又被災しないか不安。

子供たちのために、前の竹谷に戻りたい。隣の家とは離して立ててほしい。

町営住宅を希望しない方の再建内訳

	プレハブ	みなし	その他	計	主な再建先
新築・購入	1	0	2	3	町内、柴田町
賃貸	0	1	0	1	仙台市
再建済	0	0	1	1	未記入
その他	0	0	7	7	実家等
計	1	1	10	12	

再建時期

令和3年3月まで(今年度内)	2
令和3年4月~12月まで(令和3年内)	0
令和4年以降	1
無記入	9
計	12

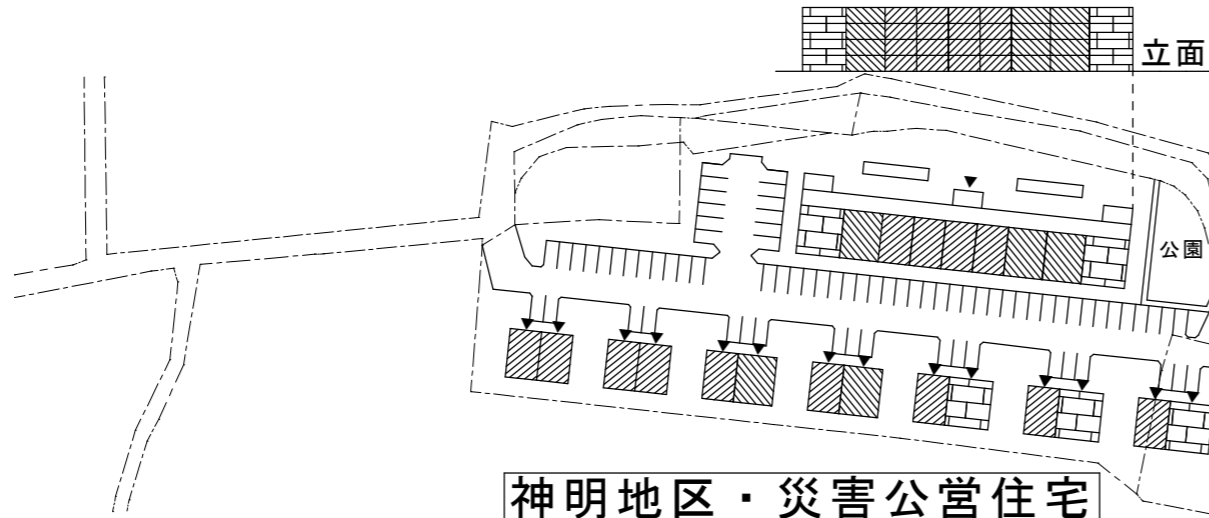
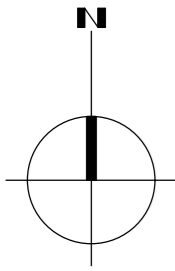
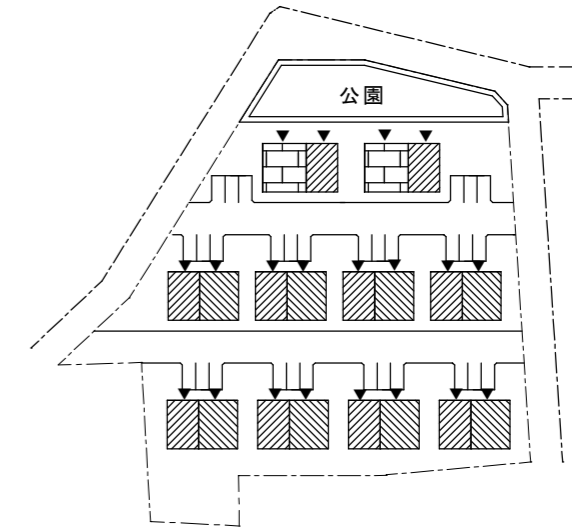
整備イメージ 整備方針

敷地	敷地面積	災害・町営	構造・階数	戸数
神明地区	約7,200㎡	災害公営住宅	木造平屋建て	64戸
	約22,000㎡	町営住宅	RC造4階建て	76戸
竹谷地区	約5,100㎡	町営住宅	木造平屋建て	20戸
			合計	160戸

内訳  
木造 84戸  
RC造 76戸

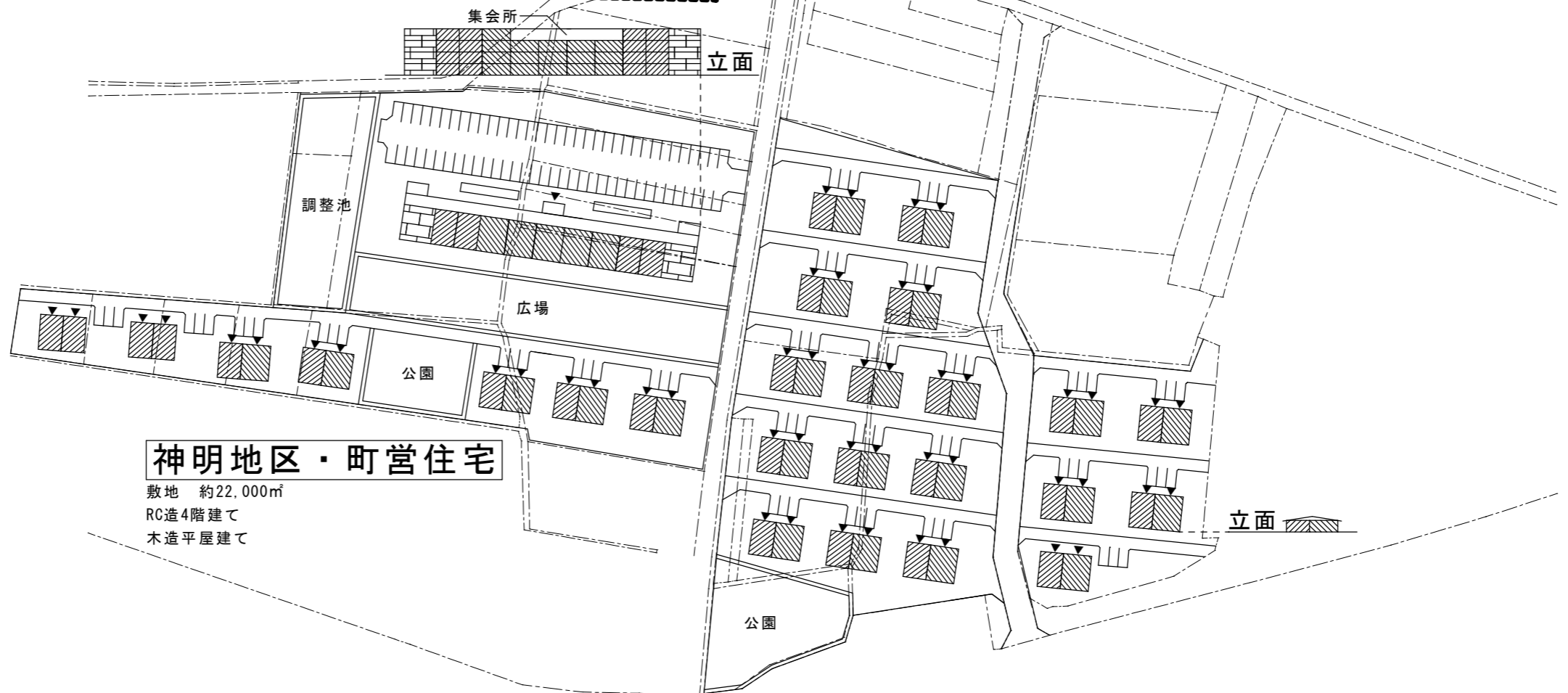
竹谷地区・町営住宅

敷地 約5,100㎡  
木造平屋建て



神明地区・災害公営住宅

敷地 約7,200㎡  
RC造4階建て  
木造平屋建て



神明地区・町営住宅

敷地 約22,000㎡  
RC造4階建て  
木造平屋建て

型式	平面図	戸数	割合
1LDK (2DK) 45~60㎡		78戸	49%
2LDK (3DK) 55~70㎡		61戸	38%
3LDK (4DK) 65~80㎡		21戸	13%

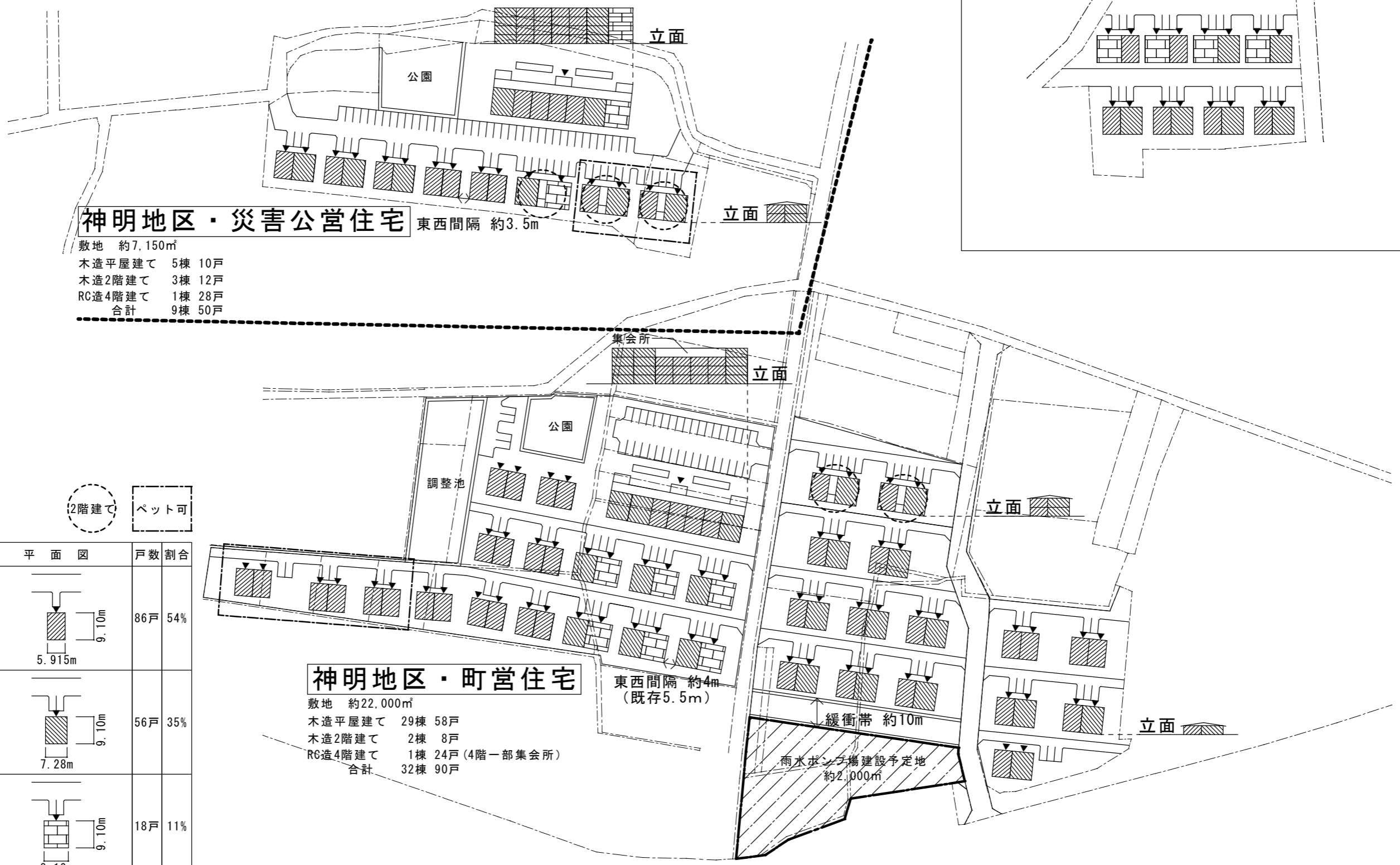
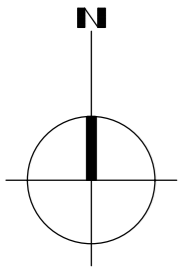
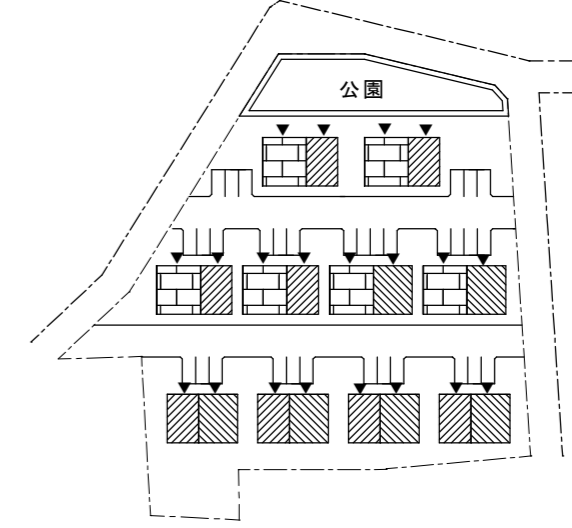
整備イメージ 2回目意向調査

敷地	敷地面積	災害・町営	構造・階数	戸数
神明地区	約7,150㎡ 約22,000㎡	災害公営住宅 町営住宅	木造平屋建て	68戸
			木造2階建て	20戸
			RC造4階建て	52戸
竹谷地区	約5,100㎡	町営住宅	木造平屋建て	20戸
			合計	160戸

内訳  
木造 108戸  
RC造 52戸

竹谷地区・町営住宅

敷地 約5,100㎡  
木造平屋建て 10棟20戸



神明地区・災害公営住宅 東西間隔 約3.5m

敷地 約7,150㎡  
木造平屋建て 5棟 10戸  
木造2階建て 3棟 12戸  
RC造4階建て 1棟 28戸  
合計 9棟 50戸

神明地区・町営住宅 東西間隔 約4m (既存5.5m)

敷地 約22,000㎡  
木造平屋建て 29棟 58戸  
木造2階建て 2棟 8戸  
RC造4階建て 1棟 24戸 (4階一部集会所)  
合計 32棟 90戸

2階建て ペット可

型式	平面図	戸数	割合
1LDK 2DK 45~60㎡		86戸	54%
2LDK 3DK 55~70㎡		56戸	35%
3LDK 4DK 65~80㎡		18戸	11%

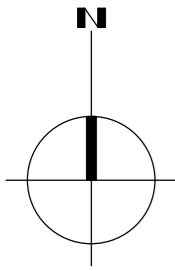
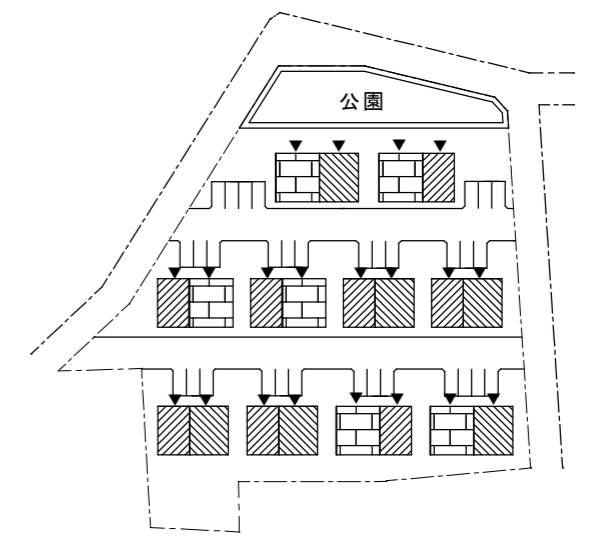
整備イメージ 建設課(案)

敷地	敷地面積	災害・町営	構造・階数	戸数
神明地区	約7,150㎡	災害公営住宅	木造平屋建て	68戸
	約19,000㎡	町営住宅	RC造5階建て	72戸
竹谷地区	約5,100㎡	町営住宅	木造平屋建て	20戸
			合計	160戸

内訳  
木造 88戸  
RC造 72戸

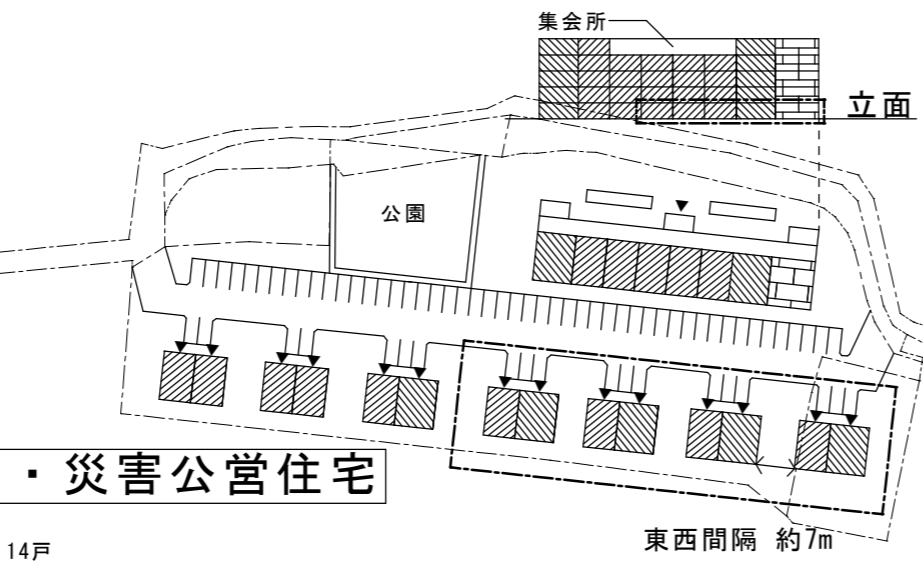
竹谷地区・町営住宅

敷地 約5,100㎡  
木造平屋建て 10棟20戸

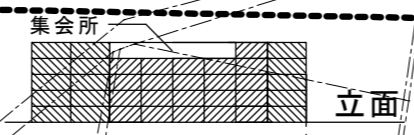


神明地区・災害公営住宅

敷地 約7,150㎡  
木造平屋建て 7棟 14戸  
RC造5階建て 1棟 36戸(5階一部集会所)  
合計 8棟 50戸



東西間隔 約7m

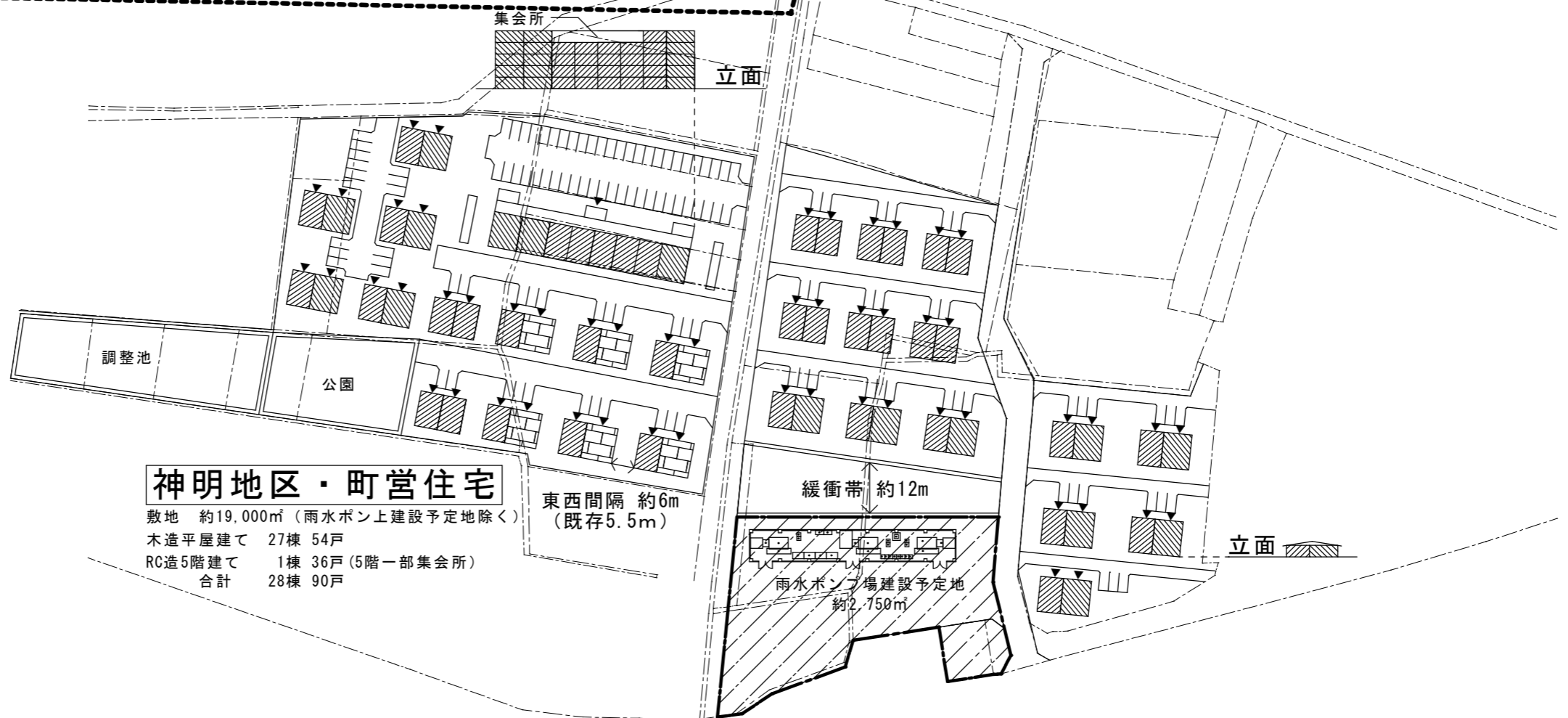


ペット可

型式	平面図	戸数	割合
1LDK 2DK 45~60㎡		94戸	59%
2LDK 3DK 55~70㎡		49戸	30%
3LDK 4DK 65~80㎡		17戸	11%

神明地区・町営住宅

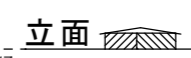
敷地 約19,000㎡(雨水ポン上建設予定地除く)  
木造平屋建て 27棟 54戸  
RC造5階建て 1棟 36戸(5階一部集会所)  
合計 28棟 90戸



東西間隔 約6m  
(既存5.5m)

緩衝帯 約12m

雨水ポン上建設予定地  
約2,150㎡



# 丸森町雨水排水計画

令和元年東日本台風の降雨により、内水浸水により雨水ポンプが機能停止し、床上・床下浸水が428戸となる甚大な被害が発生した。

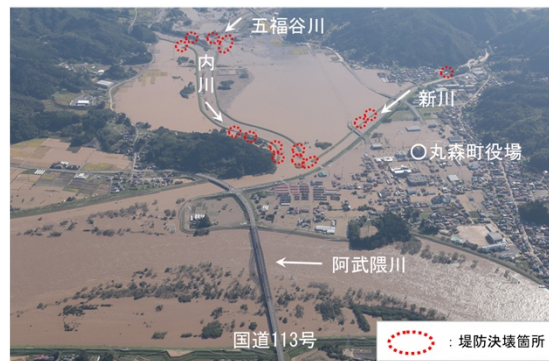
このため、雨水ポンプ増設、直接放流管の整備などを行い、令和元年東日本台風と同規模の降雨に対して、床上・床下浸水被害の軽減を図る。

## 位置図



丸森町

## 降雨による被害状況



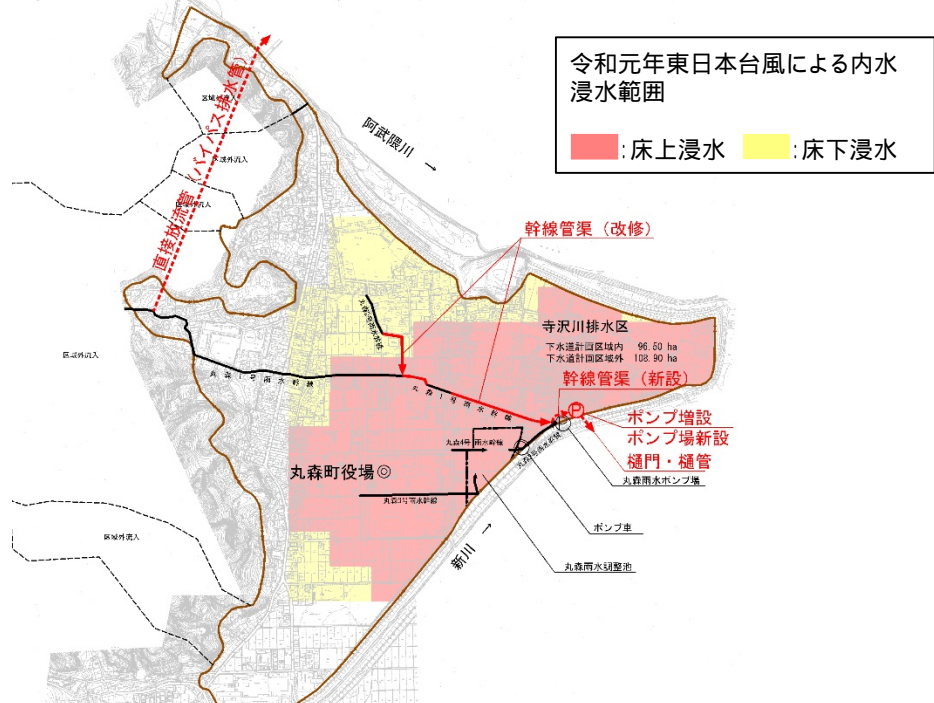
床上浸水: 370戸, 床下浸水: 58戸

## 事業概要

事業内容 : ポンプ場新設(一式), ポンプ増設(3m<sup>3</sup>/秒),  
樋門・樋管(一式), 幹線管渠(改修・新設)L=500m,  
直接放流管 L=760m

全体事業費: 約45億円

事業期間 : 令和2年度～令和5年度



令和元年東日本台風による内水浸水範囲

■: 床上浸水 ■: 床下浸水

## 事業の効果

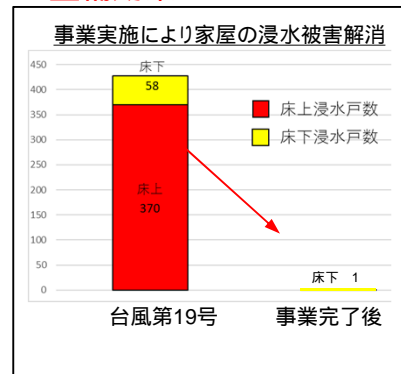
令和元年東日本台風号の降雨と同規模の内水浸水に対して、床上・床下浸水被害の軽減を図る。

<被害軽減効果>

床上浸水戸数 370戸 → 0戸

床下浸水戸数 58戸 → 1戸

## 整備効果



町では、町民に示した丸森町復旧・復興計画において、「内水氾濫を防ぐための対策強化」を掲げている。

○新設雨水ポンプ場建設位置の比較検討

【比較検討位置図】

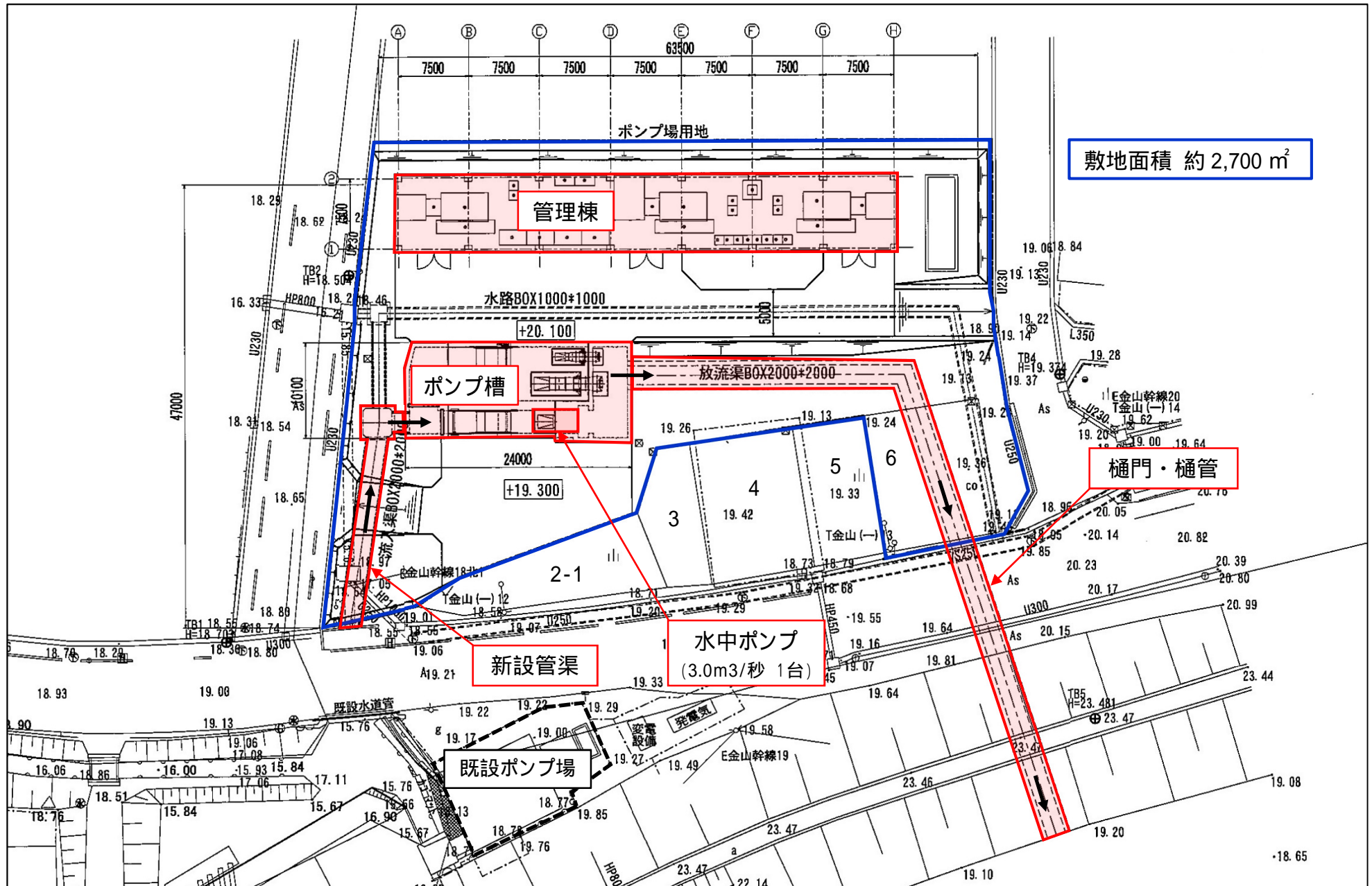


【比較表】

		CASE 1 学校給食センター	CASE 2 雨水調整池	CASE 3 神明住宅集会所
共通事項		(1)阿武隈川へ直接放流する区域。(区域内 0.13ha, 区域外 50.37ha) 直接放流量 106m <sup>3</sup> /分、放流管 1800mm、延長 760m (2)既設水路改修延長 : 450m (3)排水ポンプ車:30m <sup>3</sup> /分×2台は、今後も使用する。		
概算事業費	管路(改修)	100,000 千円	100,000 千円	100,000 千円
	管路(新設)	21,000 千円	35,000 千円	30,000 千円
	管路(バイパス)	1,110,000 千円	1,110,000 千円	1,110,000 千円
	樋門樋管	400,000 千円	450,000 千円	400,000 千円
	ポンプ場	1,800,000 千円	2,650,000 千円	1,800,000 千円
	用地	20,000 千円	20,000 千円	27,960 千円
	給食センター-移転	855,000 千円		
	計	4,306,000 千円	4,365,000 千円	3,467,960 千円
維持管理費		6,000 千円/年	7,000 千円/年	6,000 千円/年
メリット		・CASE2 と比較して建設費及び維持管理費が安価。	・町有地であり用地買収の必要がない。 ・早期に着工可能。	・CASE2 と比較して建設費及び維持管理費が安価。 ・既設ポンプ場の下流であり、水の流れ方向が良い。
デメリット		・給食センターの移転が必要である。 ・給食センターの移転後の着工となる。	・揚程が大きくなり、ポンプ能力が大きい。 ・新川河床と樋管との高低差がない。	・用地買収が必要。 ・集会所、公営住宅の解体が必要。
総合判定		○		



○丸森町雨水排水計画 新設雨水ポンプ場配置図(案)



○雨水排水施設整備年次計画表

被災 協議・設計 工事・修理 稼働 解体・廃止

施設	事業費 (千円)		R01			R02			R03			R04	R05	R06	R07	R08																
	m3/sec		10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1
既設雨水ポンプ場	1.06	2.94	1.06			1.06			1.06			2.94			2.94			2.94			2.94			2.94								
	1.50		0.38	1.98			1.98			1.98			1.98			1.98			1.98			1.98			1.98							
仮設ポンプ	1.98	災害復旧	1.98			1.98			1.98			1.98			1.98			1.98			1.98			1.98								
		町単独	1.98			1.98			1.98			1.98			1.98			1.98			1.98			1.98								
全体計画		委 2,483	1.06			1.06			1.06			2.94			2.94			2.94			2.94			2.94								
都市計画決定変更		委 880	1.98			1.98			1.98			1.98			1.98			1.98			1.98			1.98								
都市計画法事業認可		委 5,015	1.06			1.06			1.06			2.94			2.94			2.94			2.94			2.94								
新設雨水ポンプ場	3.00	7.00	3.00			3.00			3.00			3.00			3.00			3.00			3.00			3.00								
	3.00		1.00	3.00			3.00			3.00			3.00			3.00			3.00			3.00			3.00							
直接放流管	1.77	委 95,000 工 1,110,000	1.77			1.77			1.77			1.77			1.77			1.77			1.77			1.77								
水路改修	新設	工 30,000	1.77			1.77			1.77			1.77			1.77			1.77			1.77			1.77								
	改修	委 12,000 工 100,000	1.77			1.77			1.77			1.77			1.77			1.77			1.77			1.77								
丸森町ポンプ車	0.50	町単独	0.50			0.50			0.50			0.50			0.50			0.50			0.50			0.50								
可搬排水ポンプ	0.50		0.50			0.50			0.50			0.50			0.50			0.50			0.50			0.50								
排水能力計		(町施設)	0.50			0.50			3.54			4.04			4.04			5.92			5.92			8.71			8.71			8.71		
事業費計		委 202,650																														
		工 3,440,000																														
		用 27,960																														
		計 3,670,610																														
国土交通省ポンプ車要請(随時)	3.00		3.00			3.00			3.00			3.00			3.00			3.00			3.00			3.00								
排水能力計		(国交省P含み)	(3.50)			(3.50)			(6.54)			(7.04)			(7.04)			(8.92)			(8.92)			(8.71)			(8.71)			(8.71)		